

都市再生整備計画 事後評価
古川地区

平成26年3月

岐阜県飛騨市

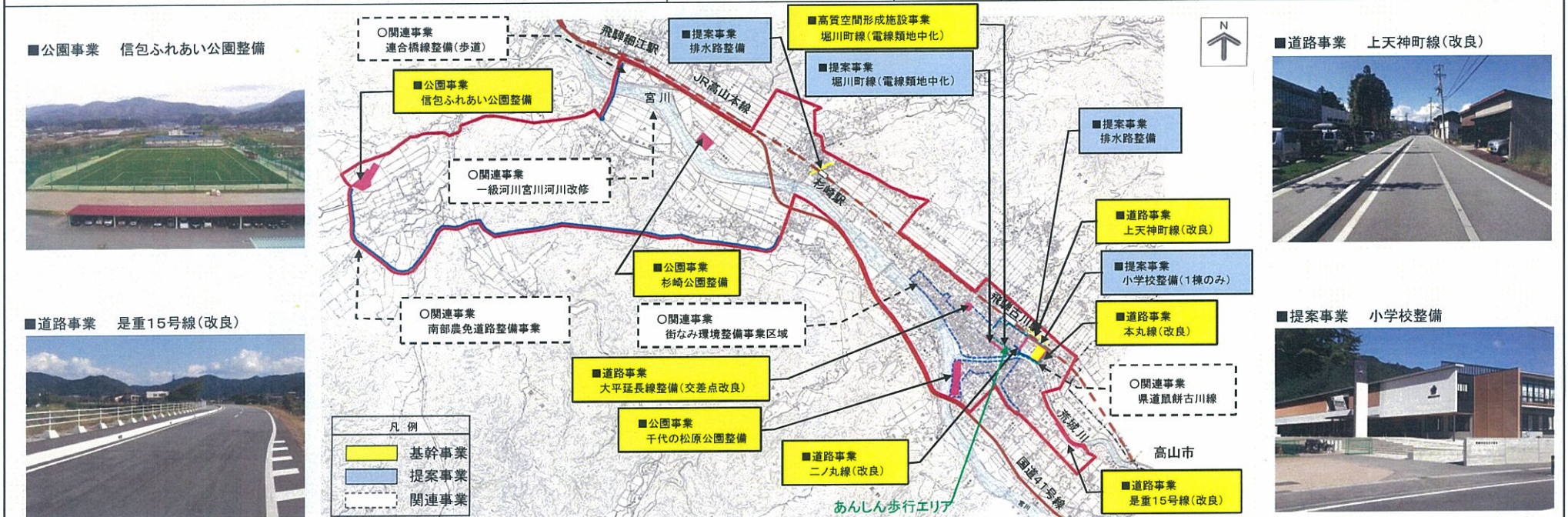
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	飛騨市		地区名	古川地区			面積	830ha		
交付期間	平成21年度～平成25年度		事後評価実施時期	平成25年		交付対象事業費	1370百万円	国費率	0.351				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	市道二ノ丸線、市道上天神町線、市道本丸線、市道重15号線、市道大平延長線、千代の松原公園、信包ふれあい広場、市道堀川町線電線類等地中化										
		提案事業	古川小学校整備、排水路整備(若宮地内)、事業効果分析事業、市道堀川町線電線類等地中化、排水路整備(杉崎地内)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	片原町広場	削除/追加の理由				当初、整備の計画を立てていたが、事業主体が県へ移行されたため、事業を中止。					
		基幹事業	特別養護支援学校(避難所)	削除/追加の理由				当初、整備の計画を立てていたが、事業主体が県へ移行されたため、事業を中止。					
		基幹事業	ヘリポート	削除/追加の理由				関係機関との協議による事業の中止。					
	新たに追加した事業	基幹事業	杉崎公園	削除/追加の理由				住民の健康促進、憩いの場の整備や団体のサッカー会場整備のため、事業を追加。					
交付期間の変更	当初	平成21年度～平成25年度	変更による事業、指標、数値目標への影響				-						
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	地区内における第二次避難所の収容者数	人	3,000	H20	3,900	H25	-	4,030	○	あり	耐震基準に適合した小学校が整備され、第二次避難所の収容人数増加に貢献した。	-
	指標2	避難所周辺の道路交通環境に関する満足度	ポイント	2.4	H20	3.0	H25	-	4.0	○	あり	避難所である学校周辺の道路整備などにより、災害時や通学時の交通安全性が高まったと考えられる。また、町並み環境の整備も行われており、目標の達成に間接的な効果があったと考えられる。	-
	指標3	スポーツ施設(ふれあい広場)の利用者数	人	14,700	H20	17,000	H25	-	16,490	△	あり	目標値には届かなかったが、ふれあい広場の利用者数は増加し目標値の97%を達成したことから、スポーツをする環境が形成されたと考えられる。	平成27年1月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	スポーツ施設(ふれあい広場および杉崎公園)の利用者数	人	21,725	H20	/	/	-	31,143	/	/	ふれあい広場および杉崎公園の人工芝グラウンドを整備したことにより、スポーツ施設利用者数が増加した。また、ふれあい広場は大会や合宿、杉崎公園は身近なスポーツ施設として利用され、2つの施設によりスポーツ振興の促進に効果があったと考えられる。	平成27年1月
4) 定性的な効果発現状況	・信包ふれあい公園及び杉崎公園の人工芝グラウンドを整備したことにより、市外のチームが参加する新たな大会が開催されるようになった。また、市外から合宿に来場するチームが増えるなど、交流人口の増加とスポーツ振興に寄与している。 ・堀川町線の電線地中化整備に伴い、地元住民との意見交換会を行ったことを契機に祭り屋敷のルートとして活用を検討するなど町並み景観を活かしたまちづくりの取り組みが始まり、地域文化の継承・保存に対する意識高揚に寄与したと考える。												
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況										
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた										
	住民参加プロセス	古川小学校の新設にあたり、住民へのワークショップを開催した。	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
		あんしん歩行エリア計画の策定に関し、地域住民や学校関係者とのワークショップを開催した。	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
市道堀川町線電線類等地中化に伴い、地域住民と舗装方法など整備に関する意見交換会を開催した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた											
持続的なまちづくり体制の構築	飛騨市まちづくり協議会(景観形成部会)の発足		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
今後の対応方針等		発足した組織を中心に、街並み景観を活かしたまちづくりを展開する。											

様式2-2 地区の概要

古川地区(岐阜県飛騨市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 子供から高齢者まで、誰もが健康で、安心・快適に暮らせる居住環境づくり 目標1 安全な交通環境及び町並みを活かした都市景観の形成を図る。 目標2 災害時の輸送施設及び避難所や備蓄施設の整備など、災害に強い都市形成をめざす。 目標3 気軽に利用できる公園の整備や文化、教育、スポーツの振興をめざした施設整備を図る。	【指標1】 地区内における第二次避難所の収容人数 単位: 人	3,000 H20	3,900 H25	4,030 H25
	【指標2】 避難所周辺の道路交通環境に関する満足度 単位: ポイント	2.4 H20	3.0 H25	4.0 H25
	【指標3】 スポーツ施設(ふれあい広場)の利用者数 単位: 人	14,700 H20	17,000 H25	16,490 H25
	【その他の数値指標1】 スポーツ施設(ふれあい広場および杉崎公園)の利用者数 単位: 人	21,725 H20		31,143 H25



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校周辺の道路や散水消雪設備の整備により歩道歩行者空間が確保され居住環境は向上したが、あんしん歩行エリア内に残された未整備区間についての通学路等の整備が課題となった。 ・電線類の地中化等により景観整備が進むことにより、空き家対策や水路等の町並み景観を活かしたまちづくりを進めることが新たな課題となった。 ・排水路整備による水害対策や古川小学校新設による第二次避難所整備によりハード面の防災機能は強化されたが、各種災害を想定した防災対策の検討や防災に対する市民への周知、避難体制の強化などの課題が新たに発生した。 ・信包ふれあい公園や杉崎公園の整備により教育・スポーツ施設は充実したが、利用率向上のためのスポーツ振興策の促進が課題となった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校へ通じる安心歩行エリア内の未整備となっている通学路について、今後さらなる整備促進を図る。 ・空き家等の活用に対する支援、横丁や水路の活用、観光案内策の強化など、ハード整備とソフト事業を組み合わせながら地域住民とともに町並み景観を活かしたまちづくりを推進する。 ・各種災害を想定した避難収容人数や避難経路などを考慮し、防災対策の方法について検討するとともに、市民の防災意識向上を図るため、自主防災組織の強化やハザードマップの周知と利活用による避難体制の強化を図る。 ・整備したスポーツ施設のPRによる知名度の向上、大会やイベント等の企画・開催による施設利用者のさらなる増加を図る。